

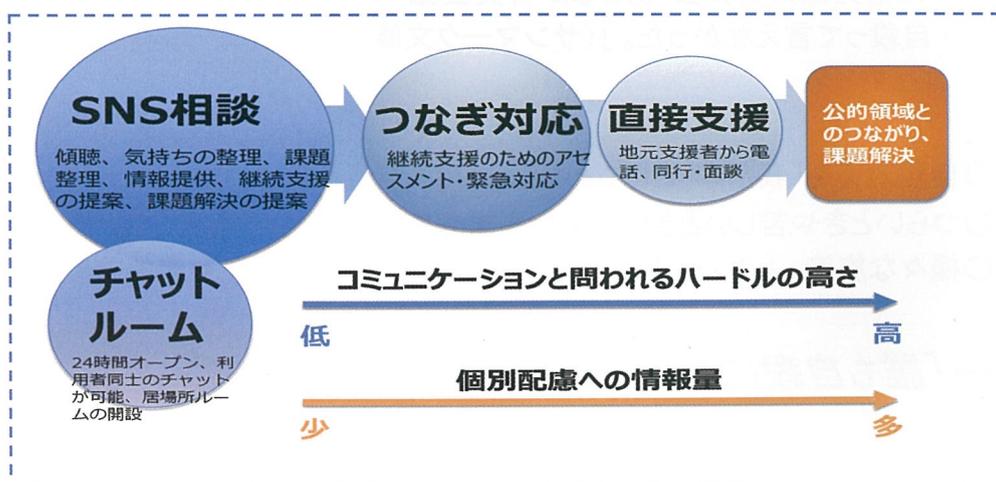
相談支援の新しい可能性

～よりそいチャット（テキストを活用した自殺相談）実績報告～



H30厚生労働省補助事業

SNS等を活用した自殺相談「よりそいチャット」



1300人を超える相談者とのやり取り

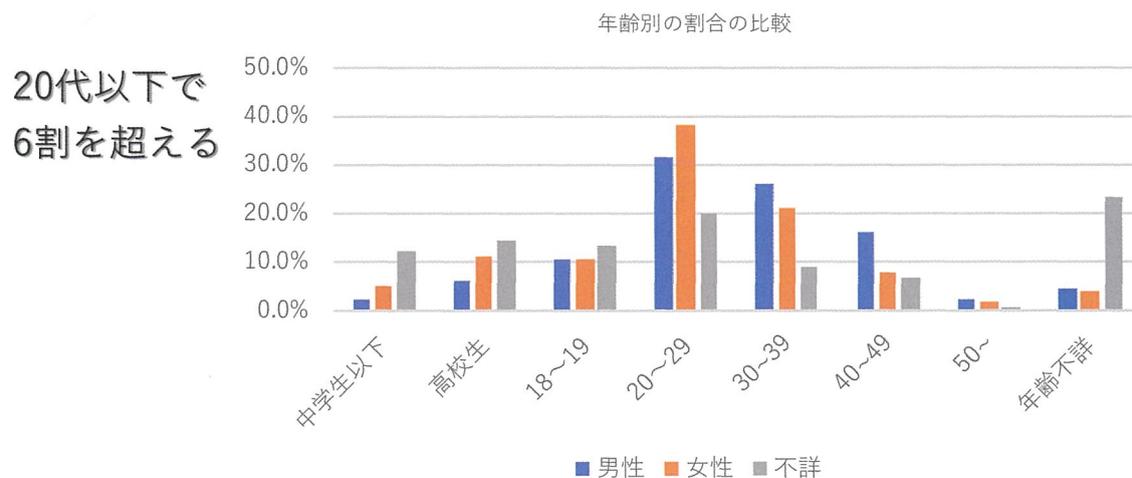
SNS相談事業集計速報（4月～8月）

友達登録数	相談者数 (実数)	相談回数 (相談のべ件数)	1相談者あたりの 平均相談回数
11953 (14193：3月含む)	1369	2123	1.55

相談所要時間	1分未満	1～10分 未満	10～30分	30～60分	60～90分	90～120 分	120～180 分	180分～	平均所要 時間
	6	16	60	311	482	376	479	393	134分

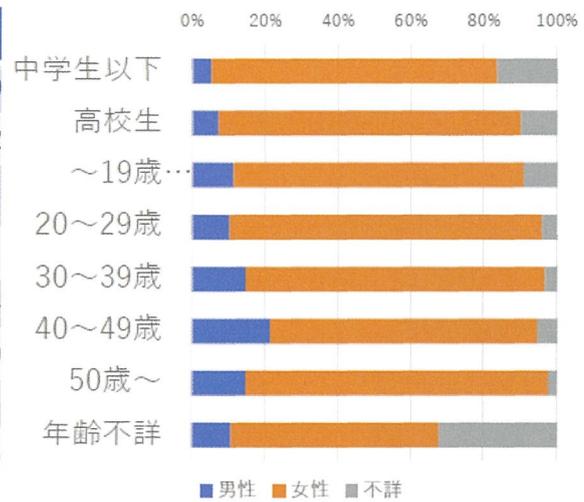
月平均	425件	毎日平均	14件	1時間平均	2.3件
-----	------	------	-----	-------	------

テキスト相談の利用者の年代



若年女性が圧倒的

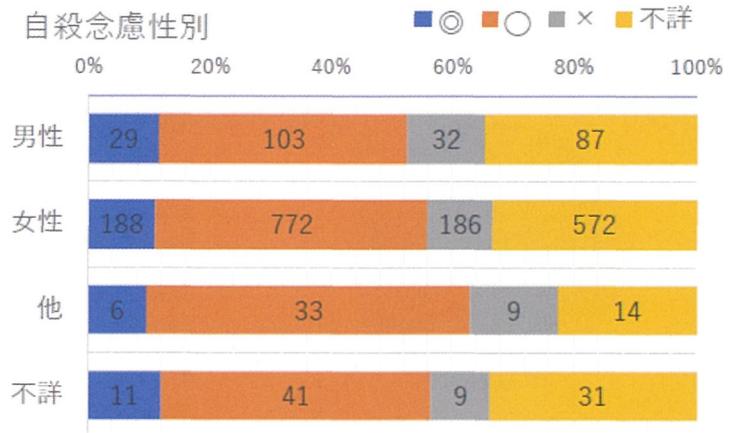
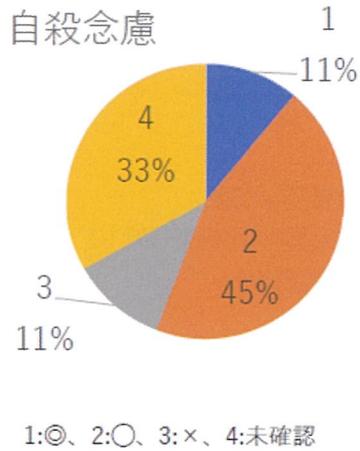
	男性	女性	不詳 (その他含む)
中学生以下	6	91	19
高校生	16	189	22
～19歳 (中高生を除く)	26	182	21
20～29歳	79	657	31
30～39歳	66	363	14
40～49歳	40	138	10
50歳～	6	34	1
年齢不詳	12	64	36



性別と職業

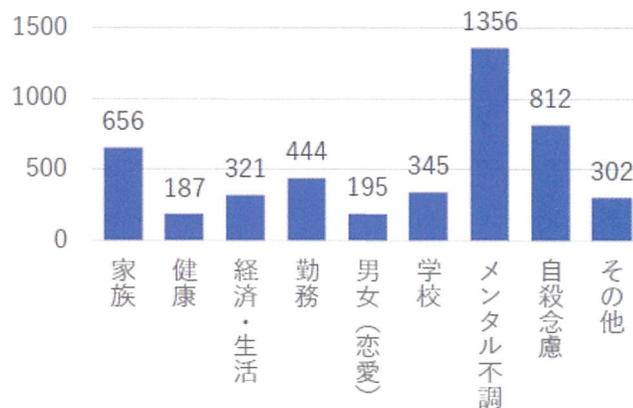
相談者内訳	男性					女性					不詳					合計				
	件数	学生	仕事有	仕事無	不詳	件数	学生	仕事有	仕事無	不詳	件数	学生	仕事有	仕事無	不詳	件数	学生	仕事有	仕事無	不詳
中学生以下	6					91					19					116				
高校生	16					189					22					227				
～19歳 (中高生を除く)	26	17	4	3	2	182	100	42	29	11	21	7	3	8	3	229	124	49	40	16
20～29歳	79	9	54	15	1	657	123	314	169	51	31	4	10	9	8	767	136	378	193	60
30～39歳	66	0	47	17	2	363	4	147	159	53	14	0	9	4	1	443	4	203	180	56
40～49歳	40	0	23	12	5	138	0	65	49	24	10	0	3	3	4	188	0	91	64	33
50歳～	6	0	5	1	0	34	0	12	12	10	1	0	0	0	1	41	0	17	13	11
年齢不詳	12	0	6	1	5	64	4	17	32	11	36	2	12	6	16	112	6	35	39	32

6割近くが「死にたい」気持ちがある

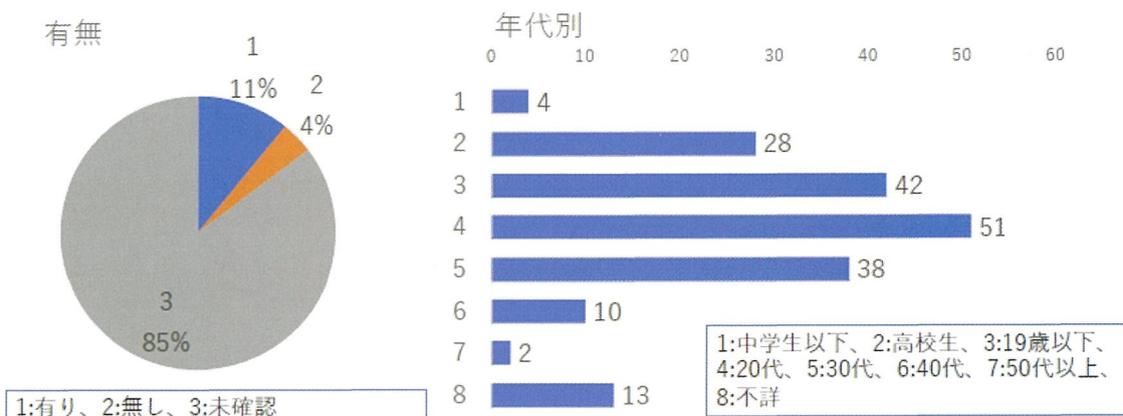


相談内容はメンタルの不調が多い

(のべ)	件数
家族	656
健康	187
経済・生活	321
勤務	444
男女(恋愛)	195
学校	345
メンタル不調	1356
自殺念慮	812
その他	302



性暴力被害は10人に一人以上



SNS相談対応事例

10代 女性 いじめ・性暴力

学校でのいじめによる自殺念慮を訴えて「よりそいチャット」に相談。「死にたい」気持ちを受け止めながら、継続的に支援する中で、実は急性期の性暴力被害に遭っていたことを確認。本音を語ってくれたことを肯定的に評価しつつ、連携している地方支援団体を通じて性暴力被害者ワンストップ支援センターにつなぐ。

20代 女性 緊急対応と継続支援

具体的な方法・期日を指定しての自殺念慮を明らかにして「よりそいチャット」に相談。緊急性を鑑みて、警察と連携して緊急保護。その後、本人とやりとりをして支援者と会うことの約束をとりつけ、借金の整理や生活・就労等の包括的な支援を現在も継続中。

20代 女性 性的虐待と援助交際

対人関係の悩みに起因する自己嫌悪、自殺念慮から相談
父親の性虐待から家出、ネットで知り合った「友人」を頼って都市部に移動してきたことが分かる。ネットカフェで援助交際をしながら生活。解離症状が激しく医療へつなげようと試みる
が、故郷の心療内科で医師から性暴力被害を受けたこともあり、同意しない。

若年者をめぐる状況

- 若年層の自死は増加を続けている
- 相談機関が不足している
 - 児童福祉法の対象からはずれると、
就労・障害など「縦割り」の相談機関はあっても
「若年層」をターゲットとした包括的な相談機関はない
- 日常のコミュニケーションはSNSなどの「テキスト」を活用するスタイルに移行しているが、公的機関は対面など直接の窓口がほとんど

SNS相談のメリットと課題

- 若年層への効果的なアプローチが可能になる
 - 若年層が相談できるようになる
- 「若年層の課題」と現状が明らかになる
 - メンタル不調、性暴力被害、対人における葛藤 など
- 相談内容の真偽がつかみにくい
- 「相談」が「ゲーム」になる危険性がある

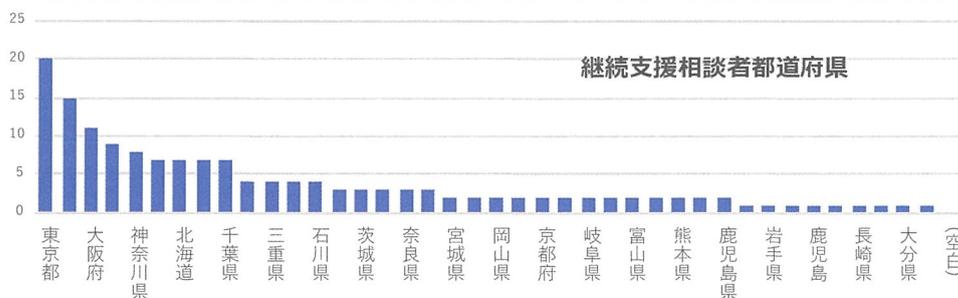
SNS相談のこれから

- SNSは「**入り口**」にすぎないという理解の徹底が求められる
→テキストベースの相談を続けるだけでは、本人エンパワーにはなりにくい。
- 相談体制は**多重構造化**が求められる
→「テキスト文化」に習熟している相談員と、「実際の支援」に経験の深いスーパーバイザーの配置が求められる
- 既存の相談機関が「若年層」特に**暴力被害を体験した若年女性**の対応スキルを学ぶ必要がある

よりそいチャットは全国から寄せられる相談に、
様々な分野の専門家等と連携しながら、
全国各地で継続的な支援を展開

よりそい全国支援におけるネットワークを駆使したつなぎ先：

福祉事務所、生活困窮者自立総合窓口、病院、精神保健福祉センター、基幹相談支援センター、地域包括支援センター、子ども家庭センター、相談所、学校、男女共同参画センター、性暴力被害者支援ワストップセンター、配偶者暴力相談支援センター、若者サポートステーション、ハローワーク、総合労働相談窓口、法テラス、無料弁護士相談、警察、消防etc..



2017 年度事業報告 (一社) 若草プロジェクト

1 概要

若草プロジェクトは 2016 年 3 月に設立、同年 4 月にキックオフ研修会を京都の寂庵で開催し、事業をスタートさせた。2017 年度も、2016 年度に引き続き、「つなぐ」「ひろめる」「まなぶ」を 3 つの柱として実施した。

「つなぐ」については、LINE による相談活動を (NPO) bond プロジェクトに委託して週 3 回行っている。「ひろめる」については 10 月に二周年記念シンポジウムを開催したほか、代表呼び掛け人を中心にマスコミ等に対してさまざまな発信を行った。「まなぶ」については、連続研修会を 3 回開催した。また、2016 年度に作成した共生社会を創る愛の基金と協働で支援者のためのマニュアルにつき、改訂作業も行った。更に、2017 年度は、企業とのコラボレーションを企画・運営する機会も得ることができた。今後は、少女と企業を「つなぐ」活動も視野に展開していきたいと考えている。

二年目も、ボランティアスタッフが中心で活動していることもあり、体制面等で多くの脆弱性は完全に解消されていない面もあるが、3 つの柱それぞれについて、一定程度の実績を挙げる事ができた。今後は、生きづらさを抱えた若年女性たちの問題により具体的にアプローチできるよう、今行っている取り組みを継続しつつ、新しい取り組みにも目を向けていきたい。

2 事業の実施状況

①「つなぐ事業」

ア.LINE による相談活動の実施 (NPO 法人 bond プロジェクトに委託)

相談開始 平成 28 年 8 月 27 日

相談の仕組み

毎週 月及び土 13~19 時、水 17~19 時に 2 名体制で実施

必要に応じてメール相談、同行支援等につなげていく

相談実績

受付申請数 1027 件

相談開始数 966 件

メール相談数 71 件

電話相談数 19 件

同行支援数 8 件

保護件数 7 件

イ. 企業との連携

企業と連携した事業を進めていくこととし、まず、ユニクロ、THEORY 等を傘下に持つファーストリテイリングとの連携をスタートさせた。

(ア)「若草×服のチカラ協働プロジェクトに関する合意書」の締結

ファーストリテイリングと連携して、全国の若い女性を支援する施設を対象とした日常生活パックの寄付、ファッションイベントの開催等を進めることとし、10 月 18 日付けで合意書を締結した。

(イ) 実行委員会の開催

合意書に基づく連携を具体的に進めるため、代表的な支援施設による実行委員会を組織し、2 月 1 日に第 1 回を開催した。

(ウ) ファッションイベントの試行的開催

BOND プロジェクトと THEORY (ファーストリテイリンググループ) によるファッションイベントを 12 月 1 日に試行的に開催した。

②「ひろめる」事業

ア. 設立2周年記念シンポジウム

現代社会の歪みの中で、生きづらさを抱えた若い女性や少女たちが、スマホやインターネットを通じて性犯罪、ポルノ、DV、薬依存などの罠に絡め取られている。彼女たちの心のSOSをキャッチし、支援することが必要であると考え、この問題を広く社会に訴えかけるために、シンポジウムを開催した。

開催月日 平成29年10月16日

開催場所 響都ホール(京都駅八条口前 アバンティ 9F)

参加者 約330名

内容

挨拶 福島 至(龍谷大学矯正・保護総合センター長)

お話 瀬戸内 寂庵(作家、僧侶、若草プロジェクト代表呼び掛け人)

講演1「『つなぐ』『ひろめる』『まなぶ』-若草プロジェクトの事業-」

村木厚子(前厚生労働事務次官、若草プロジェクト代表呼び掛け人)

講演2「女の子たちのいま」

橘 ジュン((NPO) BOND プロジェクト代表)

パネルディスカッション 「少女たちの実情と立ち直りに必要なこと」

コーディネーター 浜井 浩一(龍谷大学法学部教授)

パネラー 安保 千秋(弁護士)

齋藤常子(京都更生保護女性連盟)

森 伸子(法務省和泉学園長)

森口 由美子(大阪府立高校養護教諭)

閉会挨拶 大谷恭子(若草プロジェクト代表理事)

イ. 広報活動

(ア) 新聞、雑誌等への働きかけ

シンポジウム、研修会等のイベントの記事の新聞・雑誌への掲載
理事、代表呼びかけ人の講演、エッセイ、インタビュー等

(ウ) リーフレット等による広報

リーフレットの作成

ホームページの運営

アドレス : <http://wakakusa.jp.net/index.html>

③「まなぶ」事業

ア. 「女の子」たちの今を知り「信頼される大人になる」ための連続講座

第4回(平成29年4月22日 寂庵 参加者約50人)

性虐待から生き延びる—わたしたちにできることは—

講師: 上岡陽江氏

第5回(平成29年8月5日 更生保護会館 参加者約60人)

非行と少女—支援の現場から—

講師：堂本暁子氏、田川ふれ愛義塾 工藤良理事長

第6回（更生保護会館 参加者約60人）

少女たちが安心して「助けて」と言える社会に―「座間事件」を繰り返さない―

講師：特定非営利活動法人OVA（オーヴァ）代表理事伊藤次郎氏

イ.マニュアルの改訂

「少女 若年女性を支援する人のためのハンドブック」

若い女性たちの環境や心情の理解

援助機関の分野別解説

虐待・性的搾取・依存症・暴力などの事例

頒布価格 500円

3 総会・理事会の開催状況

機関

代表理事 大谷 恭子

理事 村木 太郎

理事 遠藤 智子

理事 瀬尾 まなほ

理事 牧田 史

総会 平成29年4月4日

2016年度事業報告・会計報告

2017年度事業計画・予算

会員及び賛助会員の会費について

理事会

第1回 平成29年5月16日

第2回 平成29年6月7日

第3回 平成29年7月26日

第4回 平成29年8月30日

第5回 平成29年9月19日

第6回 平成29年10月11日

第7回 平成29年11月13日

第8回 平成29年12月15日

第9回 平成29年2月20日

臨時理事会

第1回 平成30年1月18日

第2回 平成30年2月5日

第3回 平成30年2月28日

第4回 平成30年3月19日

4 会員、賛助会員の状況

正会員 5名（代表理事・理事から成る）

賛助会員 157名

合計 162名

私たちは
少女と若い女性たちの
今とこれからを
応援します



日本生命

NISSAY

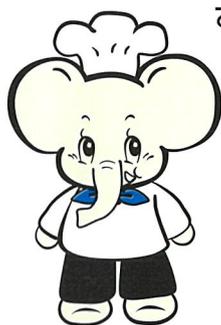
pal*system

パルシステム共済生活協同組合連合会



pal*system

パルシステム連合会



きたぞう君

さまざまな角度から
キッチン環境をサポート！

人の暮らしの中心にある『食』
それは安全で、楽しくて、おいしい。
北沢産業は、業務用厨房機器で
『食』をプロデュースします。

kitazawa

北沢産業株式会社

〒150-0011 東京都渋谷区東 2-23-10 TEL:0120-151-858
<http://www.kitazawasangyo.co.jp>



青山学院大学法科大学院

<http://www.law.aoyama.ac.jp>



TAISEI

大成建設

For a Lively World

日本産業パートナーズ株式会社

(株) ファーストリテイリング



株式会社フロックは、
すべての女性を応援します！



Fluke 株式会社フロック

代表取締役社長 高倉 章子

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町66番地 安商ビル3階
TEL.03-5155-4565 <http://fluke.jp>



SAPIENT inc.

株式会社サピエント

代表取締役 湯川 智子

「人生というギフトを大切に」

特定非営利活動法人 まちなか



DINING, SCHOOL AND CARING.

就労継続支援 A 型事業所 ダイニング街なか



ITARU CENTER



近藤貿易株式会社



賛助会員の募集

プロジェクトに賛同し、一緒に活動したり、財政的な支援をしてくださる方々を下記のとおり募集しています。賛助会員の方は、ご了承が得られれば、賛同人としてお名前、所属をHPに掲載させていただきます。

年1口1万円

(賛助企業会員は5口以上でお願いします)

ゆうちょ銀行 10170-85054551 シャ) ワカクサプロジェクト
(銀行等から振り込むときは 支店名〇一八 口座番号 8505455 となります)

お申し込みいただきましたら、会費の振り込みを確認の上、賛助会員の登録をさせていただきます。

なお、お申込みいただく際は、若草プロジェクトのホームページ (<http://wakakusa.jp.net/index.html>) にございます、専用の申込フォームをご利用ください。

上記口座からお振込み頂いただけでは、どなたからのご送金か特定できないため、賛助会員の登録ができない場合がございますのでご注意ください。

皆様の賛助会費は、LINE相談の運営費用や同行支援の費用等に使用させていただきます。

何卒ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

若草プロジェクト設立3周年シンポジウム

p r o g r a m

開場

【13:30】開会あいさつ、若草プロジェクト事業報告

村木厚子 元厚生労働事務次官

牧田史 (一社)若草プロジェクト理事、弁護士

寂庵からの報告ー若草と私ー

瀬尾まなほ 瀬戸内寂聴秘書

「座間事件」後の若年女性や少女たちへの支援の状況

厚生労働省の取り組みについて

宮原真太郎 厚生労働省参事官(自殺対策担当)

SNSが開けた若年女性のパンドラの箱

熊坂義裕(一社)社会的包摂サポートセンター代表理事、医師

●休憩●

【15:15】基調講演

少女たちの現在あるいは居場所ー『路上のX』から

桐野夏生 作家

対談

桐野氏、大谷恭子(一社)若草プロジェクト代表理事、弁護士

会場からの質問

閉会あいさつ

閉会